

上京 史蹟と文化

2002 VOL. 22



美を創る

能楽師

河村禎二

京都市上京区烏丸通上立売上る

能「鶴龜」



足利幕府の所在地であった室町時代の「上京」は能楽の中心地でもあった。平成の今も上京区内には多くの能楽師が住まわれ、河村能舞台という演能の場もある。さらに金剛能楽堂も京都苑の西へ移つてこられるという。毎年九月に白峯神宮で開催される「上京区民薪能」も三七回となり、すつかり秋の風物詩となっているが、その運営を支えていただいている観世流能楽師で重要無形文化財「能楽」の総合指定保持者の河村禎二・浅井宏蒸両師に新春のある日、能の美について語つていただいた。

まず河村師は、能という幽玄の美について「明らかに内に込めた写実を説くもので、衣に包みながら、あらゆるものとそぎとつた本質といえる。今回、能楽が世界文化遺産に取り上げられ、世界から認められるという動き 자체に洗練されたものを見出している。日本的なものを世界の人々が見ると、新たに見られる最

美を創る

能 樂 師

浅 井 宏 祥
ひろ むつ

京都市上京区新町通今出川下る

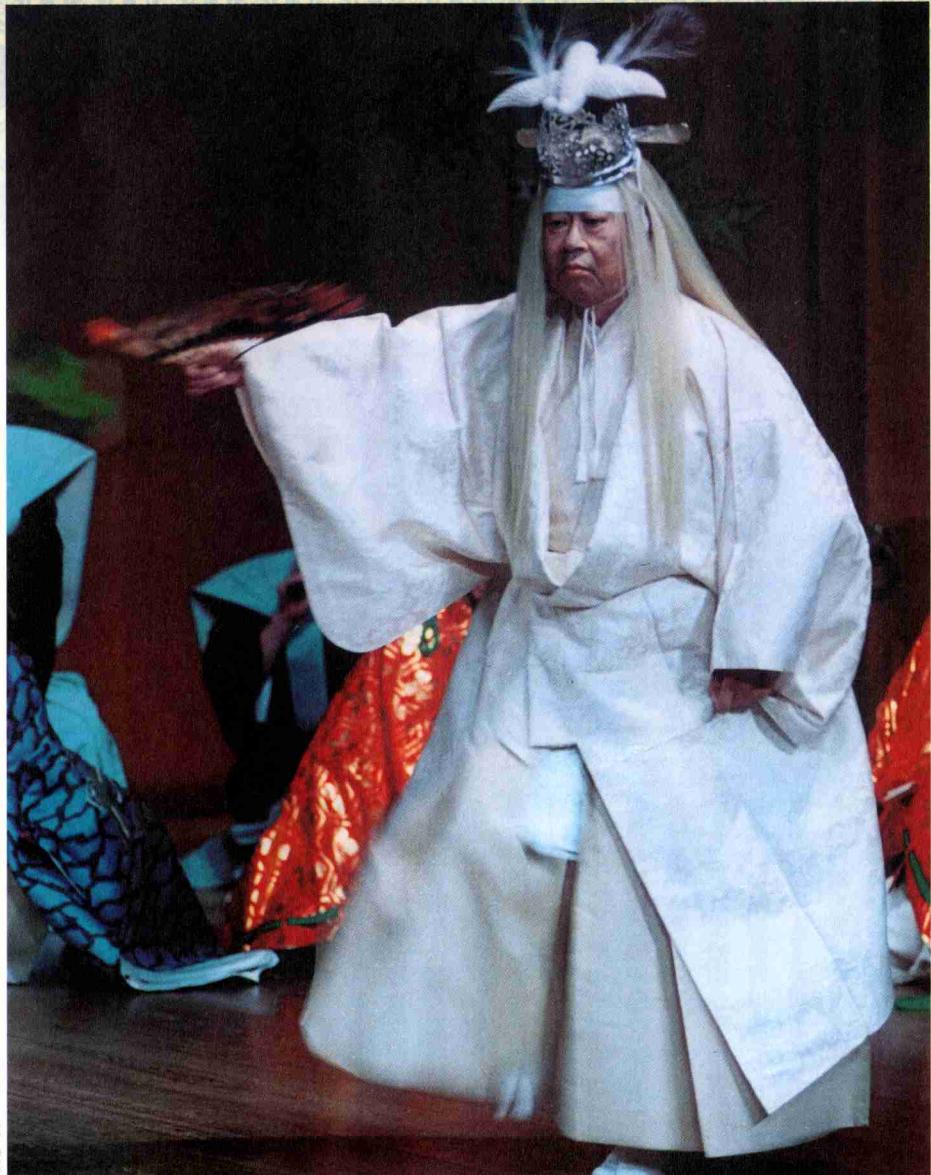
能「鸞」

お二人の話を聞くにつれ、能楽の世界は前途洋洋たるものがあると感じさせられた。

能の普及とか、指導者の充実が必要で、大きなことを望むだけでなく、小さな舞台でも、多くの団体でも、たった一人でも楽しめるのが魅力なのだ』と能楽の将来について期待をこめられた。

能「鸞」には、能の魅力が詠じられており、能の世界は、時代の進展で夢幻の能をタイムマシンで止めることもできる。能は自由自在、場所もかまわずにローマの廃墟でもビルの谷間でも演じられる無限の生命力を持つものである。』と熱っぽく語られた。

能「鸞」には、能の世界は、時代の進展で夢幻の能をタイムマシンで止めることもできる。能は自由自在、場所もかまわずにローマの廃墟でもビルの谷間でも演じられる無限の生命力を持つものである。』と熱っぽく語られた。



「上京の史蹟シリーズ」

上京の大路小路

(その4)

ほ 堀川通

堀
川

北は上賀茂御園橋から、南は東海道線を越えて油小路通と合流するまで、八キロあまりに及ぶ長い道路が堀川通です。周辺には二条城や西本願寺など多くの史蹟を見る事ができます。このうち上京区に属するのは紫明通から

二条城の北側に至る四・七キロの大通りです。

平安京の建設で、それまで西南へ流れていた鴨川を東へ付けかえたあとが

堀川になつたという説が通用しています。

しかし最近の学説では、鴨川の痕跡ではなく、それまでの小さな川を

掘り広げた人工に近い川であろうといわれるようになりました。もともと平

たとも、道路幅は各二丈であったとも考えられています。

セ 戦前の堀川通

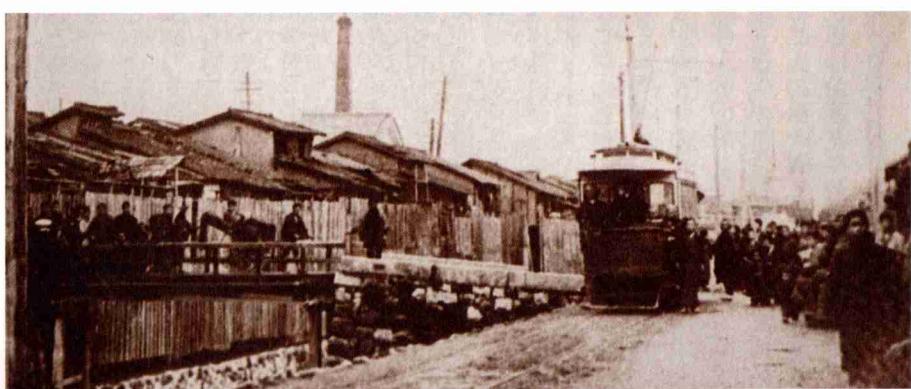
戦前の堀川通

今では堀川通といふと、京都市内の中央部を南北に貫く大通りという印象が強いのですが、今から五十七年より前の堀川通といえば堀川を挟む二本の細い通りで、それが大きく変化したのは戦争末期の昭和二十年のことでした。空襲の延焼を防ぐための防火帯として家屋を取り除く強制疎開に遭遇したのです。それまでは今の堀川通の中央部あたりに細い西堀川通があり、東側は堀川の西岸まで家屋が接していました。そのため、東側は川岸から、西側は

安京の地は、山背盆地北方の低湿地を開拓した土地であり、細い川が網のように流れています。

平安京は朱雀大路を中心として一町毎に幅四丈の小路を、四町毎に大路を開きました。堀川小路は幅八丈の西洞院大路と幅十二丈の大宮大路の中間にあり、その両側は幅四丈の油小路と猪熊小路でした。いずれも今も通り名として残っています。そこで堀川小路は幅四丈の川の両側に各四丈の道路があつたとも、道路幅は各二丈であったとも考えられています。

葭屋町の近くまで広がりました。堀川から半町あるはずの葭屋町通との間が家一軒分くらいしかないのはそのせいです。古い写真を見ていただくと、堀川の西岸に民家の裏が、東側に電車が走っている様子がうかがえます。



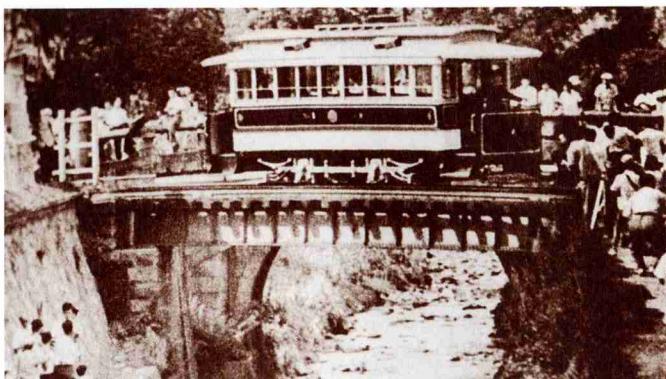
堀川の西岸に裏の堀を見せる西堀川通の町家 京都市交通局「さよなら京都市電」より掲載

終戦直後、木造家屋が壊された広々とした廃墟に土蔵と石灯籠が点々と残っていたのを覚えておられる方も多いことでしょう。しかも堀川通には鉄筋コンクリートの建物は全くなく、同じように強制疎開にあつた御池通や五条通でも鉄筋コンクリート造は、それぞれ一つずつあつただけでした。

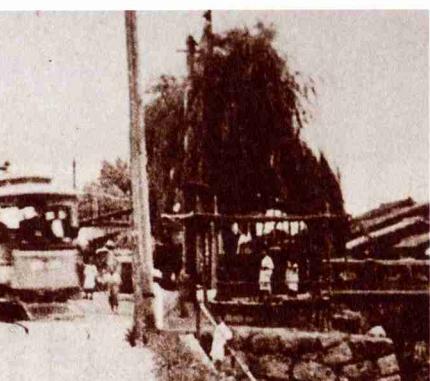
御園橋から南下する堀川通は、戦前すでに紫明通りまで二十四メートル道路が完成していました。強制疎開は上御靈前通の扇町児童公園まで、その間には民家や水火天満宮が残っていました。昭和二十七年に水火天満宮を東側に移転させ、紫明通りの整備とともに堀川通を直結し今の姿となつたのです。

今ふりかえって見ても、東堀川通の四条から中立売まで、四十年ほど前に電車が走っていたことが想像できないような時代になりました。三フィート六インチの狭軌の線路がガタガタ、チンチンと走っていた車両をなつかしむ上京区民も多いことでしょう。ドアのない運転台の反対側から切符も渡さず降りた悪童も、もう時効でしょう。

堀川中立売の急カーブをキリッと



中立売橋を渡るチンチン電車



下立売通から東堀川へ曲がるチンチン電車

車輪をレールにきしませながら、手廻しのブレーキを掛けて、鉄橋を渡る運転手の技量に見入つたのも懐かしい思い出です。終戦直後、ここでカーブを曲り損ねて鉄橋から電車が堀川へ転落した事故も大変な出来事でした。強引に運転手に運転を代わらせた進駐軍の兵士の悪業だと、もっぱらの噂でした。

兵士の悪業だと、もっぱらの噂でした。曲り損ねて鉄橋から電車が堀川へ転落した事故も大変な出来事でした。強引に運転手に運転を代わらせた進駐軍の兵士の悪業だと、もっぱらの噂でした。

その後、木屋町二条から寺町通、丸太町通、烏丸通を経て、府庁前の下立売通から東堀川へ出て中立売まで開通したのが九月のことです。明治三十三年になると、京都電鉄の路線は延長され、堀川中立売から中立売通を下ノ森まで、堀川下立売からは南下して四条堀川を東へ折れて西洞院通を南下し、京都駅近くの三哲まで開通するのが、やっと明治三十七年のことです。

見の京橋舟乗場から竹田街道を経て七条ステーションを結び四月には木屋町通から二条通を会場まで日本最初の營業路線を開業しました。

明治三十五年は北野神社の大萬燈の年にあたりました。祭神菅原道真の千歳祭を祝して下ノ森から北野まで屈折した道路を経ながら延長されました。

明治末年に京都市営電車事業が標準軌条（四フィート七インチ半）で開業し、やがて大正七年に京都電鉄を京都市が買収します。狭軌は標準軌条に改めましたが、北野線といわれた西洞院・堀川・中立売を経て北野へ至る路線は、昭和三十六年七月三十一日に営業を終わるまで、狭軌複線のまま走りつづけたのでした。

今や北野線電車の名残は、ほとんどわからなくなっていますが、堀川第一橋の名を残す中立売の橋の南側の堀川の川岸には煉瓦積の橋台がその鉄橋の遺址として残っています。

チ ン チ ン 電 車

し
紫明通りから今出川まで

明治二十八年、京都は平安遷都千百年の記念行事として第四回国勧業博覧会が岡崎の地で開かれます。この輸送機関として京都電気鉄道を設立、伏



水火天満宮の是より洛中標と登天石

があります。その向かいは「おりべ寺」の名で知られる興聖寺の伽藍です。

道路の真ん中になった水火天満宮は、昭和二十七年に東側の現在地へ移転します。境内には洪水の鴨川で菅公が昇天したという登天石があり、その傍らには「これより洛中馬の口付のもの乗へからず」という石標がありますが、これは江戸時代に洛中と洛外の境目に立てられたもので、市街地に入ると馬から降りて口取をしなさいという交通標識なのです。市内に数本が残されていますが、ここのは堀川頭にあつたものと思われ、昔の堀川通を偲ぶ記念碑もあります。

このあたりから今出川通まで中央分離帯に空高く伸びる街



堀川寺之内辺りの銀杏並木

道橋の上から見た風景も絶景で、京都市内でも最も美しい街路樹といえます。ユリノキは疎開跡が苗圃であった頃の名残で、そのまま街路樹として大きく育ったのです。イチヨウ・ユリノキともに上京区民の誇りの木に選定されています。

上御靈前通から南には堀川通に沿って、東側に本法寺・慈受院・宝鏡寺、西側には妙蓮寺があります。本法寺は日蓮宗十六本山の一つで江戸時代後期の建造物が京都市指定有形文化財となっています。またこの周囲には小川通との間に裏千家の関連施設もあります。慈受院は上京区に多い尼門跡の一つで、

堀川今出川交差点の道路上を橋之上町といいます。今出川通と堀川通が拡張されて、東南側に七世帯だけが住む小さな町内になってしましましたが、かつて堀川の上に架けた橋の上に人家を建てたので、この名ができるといいます。

西側に西陣織会館があつて西陣織業界の拠点となっていますが、かつて村雲御所といわれた瑞龍寺がありました。現在は滋賀県近江八幡市の八幡山に移転しています。西陣織会館の向かい側、堀川通の東寄りで堀川が地下から姿を現わします。しかし川床はコンクリートで固められ、中央に細い溝があつて雨水を流すだけという状態になっています。この川で友禅流しが行われたり、

薄雲御所と称し、応仁の乱後は衰微して一時は廃寺となっていましたが、大正八年に再建されました。

今出川から竹屋町まで

寺之内通から南は東側に西陣らしい職種の商店が残っています。住宅地図を見ると、このあたりの堀川通の中央部には複雑な町境が見られます。これもかつて民家が密集していたことを示す遺物といえます。

舟で石材や木材を運んでいたことは想像もできません。

京都市では、地元の皆さんとともに堀川をよみがえらせる計画が進められ、その一環として、今年度から堀川通の下では下水道の工事が始まりました。それに伴ない、将来、第二疏水の水を引き入れ、その一部は二条城の外堀を浄化し、西高瀬川に流されます。

今この付近で最も賑わっているのが晴明神社でしょう。祭神の安倍晴明が陰陽師ブームに乗って若い女性にもてはやされ、此頃は堀川今出川でのバスの乗降客層にもこれまでと違った姿が見られるようになりました。安倍晴明



堀川第一橋の欄干（中立壳）

んでいそうな光景ですが、橋は平成七年に新しく架けかえされました。ここに十数本のクスノキも中立壳付近のスズカケノキとともに上京区民の誇りの木に選定されています。今は埋め立てられた堀川の分流の小川がここで再び堀川と合流していました。

風情のない一条戻橋とよく間違われるのが中立壳にかかる堀川第一橋です。

石造の欄干の親柱には明治六年三月の刻銘があつて、その時の姿のまま今に伝えています。今も重量車輛が通つても大丈夫なのは、石造アーチ橋を築いた当時の白川村の石工の技術の確かさを証明しているのでしょう。親柱に京都府知事長谷信篤や京都府参事楨村正直の名に加えて石工の名が刻られていました。また下流側の両岸には北野線の鉄橋の橋台であつた煉瓦積が残っています。

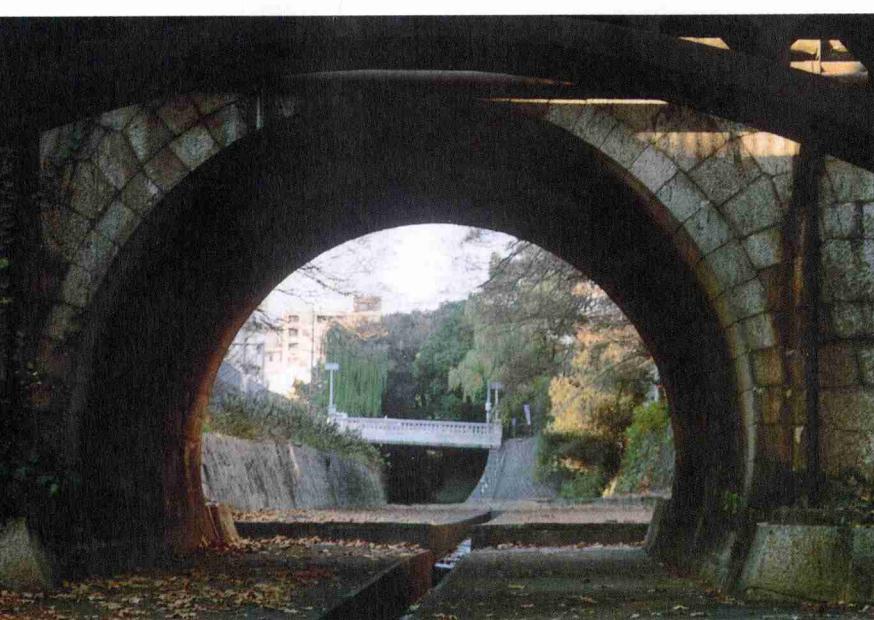
ついでながら

下流の下立壳通にも同じ石造アーチ橋が堀川第二橋として架けられましたが、今では拡幅され

てコンクリート橋に覆われています。しかし、

その土台となつているのは当時の石橋で川岸から覗くと石のアーチ橋が見え、

は一条戻橋の下に式神を閉じ込め、その呪術によつて式神を自在に操つたといいます。一条戻橋の北詰には川岸に樹木が茂り、いかにも式神や妖怪が住



堀川第一橋の下から見た一条戻橋



中立壳鉄橋の旧橋台

橋畔には「堀川第二橋」の親柱も保存されていて往時を偲ばせてくれます。拡張された西側には、中立壳通下るあたりから榎木町までの間に、六棟の三階建ての公営住宅が建っています。いわゆる店舗併用住宅で、間口が六〇メートルほどの一階が店舗、二・三階が住宅という当時としては最先端の団地でした。当時、新しい堀川通の整備とともに疎開跡を有効に活用したこと

で評判となりました。これによつて堀川通西側の長い商店街が生まれたのです。今となつては古くなつた感じですが、その姿は堀川に似合う町並を作り出しているといえましよう。

東堀川通の出水通と下立売通の中間あたりに白壁の土蔵と松の木があります。ここが伊藤仁斎の宅跡で国の史跡となっています。伊藤仁斎は江戸時代の儒学者で、当時一般化していた朱子学よりも孔子の時代に近い古義学こ

そが正しい儒学であるとして、町人にわかる学問を広めました。その私塾を古義堂と言い土蔵は仁斎の書庫でした。その学問は子の東涯から子孫へ受けつがれて堀川学派といわれました。

東堀川通丸太町上るには並河天眠の私塾堀木之舎や、葭屋町出水上るには山崎闇斎の居宅など江戸時代の学者や文人も住んでいました。

丸太町を越えると上京区から中京区に入り、堀川は二条城の外濠の役目になります。ここが伊藤仁斎の宅跡で国の史



堀川第二橋の欄干親柱（下立売）

代わります。暗渠化された御池通以南の復活は無理としても、清流が復活し、水辺の憩いが戻ることを期待するのが上京区民の願いといえましょう。



堀川通西側の店舗併用住宅

ルビノのやすらぎ
2,800円(税・サ別) ●ご予約制
大好評!

HOTEL **Rubino** ホテル ルビノ京都都堀川
〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
Tel.075-432-6161 / Fax.075-432-6160



堀川丸太町下る辺り



富田屋 (とんだや)

京都市上京区大宮通一条上る 電話 (075-432-6701)

西陣の中心である大宮通は「千両ヶ辻」といわれ、荷車の糸が帰りには千両箱になつたという話もある。このあたりには多くの町家が残つている。中でも富田屋は最も西陣らしい町家といえよう。表に贅を見せる室町の商家と違い、西陣の商家は客が出入りする表は質素に、主人が特別な客をもてなしたり、自らの芸の嗜みを楽しむ奥に贅を尽くしたといつ。

ここ富田屋は西陣を代表とする商家である。社長の田中峰子さんはその三代目、先祖は江戸時代に伏見で両替商を営み、三井・鴻池と肩を並べる豪商で、能楽金剛流を蘊ながら支えていた家でもあつたという。しかし、明治元年の鳥羽伏見の戦で屋敷は全焼し、家の系図も記録も全て失われてしまつた。

その後、明治十八年に十代目の藤兵衛が西陣で織物商として富田屋を再興する。今も大宮通に面する主家の店構と表蔵、それに中蔵は、その頃に建てられた。二つの坪庭を挟んだ昭和十年に完成した離れと宝蔵は、主屋と違つて目を見張らざるような贅沢な作りである。離れに至る廊下には半間幅に七枚合わせた長さ四間半の杁目(のぞぎ)の松材、その狂いのない細工は、当時の大工に極限の技を任せた施主の目利きに感心させられる。

離れた奥座敷は一見しただけでは平凡な町屋の作りであるが、床柱・長押・建具等々、これより上はないという大方柾目の材ばかりで組み上げられ、目がしつらえられてある。同じ棟の内に設けられた四畳半の茶室は、官休庵武者小路千家九代目家元より「愛寿」の名をいただいた名席もある。

これらの建造物群を生かしているのが坪庭である。京都の町家は表と奥の間に坪庭という一坪程の小さい庭を作り換気の役目を果たすのであるが、その庭はどの視点からも庭木と石の美が生かされている。

五棟の建物と二つの坪庭、それぞれがお互いに結びあつて西陣の町家の美を作り上げているのだろう。平成十一年、この全部が国の登録有形文化財となり、一般に公開されるよくなつた。社長御自身の解説を聞きながら邸内を案内していただけるが、お茶席や着物体験、さらに西陣伝統御飯もいただけるような企画もなさっている。春から夏にかけて雛祭りや大将飾も計画されている。なお見学等は有料で予約が必要。



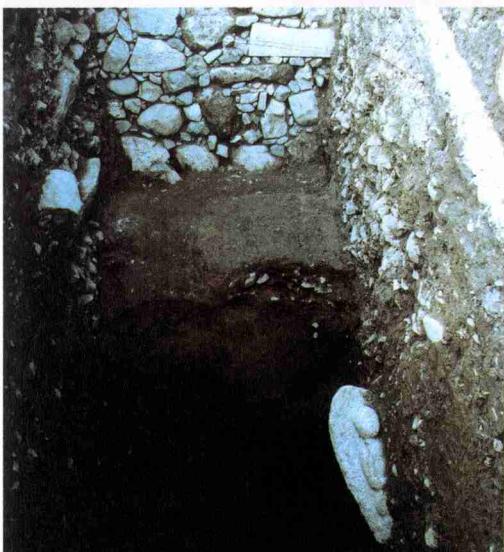
上京の埋蔵文化財

—旧二条城の発掘調査—

烏丸通の下には地下鉄が走っています。乗車して吊り革にぶらさがると、私はついぞ発掘のことを思い出してしまいます。

不思議に思われるでしようが、原因は何年もかかって地下鉄建設の際、烏丸通を発掘していたからです。もうずいぶん昔の話です。でも丸太町駅に着くと、ここから旧二条城が始まっているのだと思つてしまします。電車が北へ進むにつれ、当時の発掘の情景がよみがえってきます。

旧二条城は、織田信長が永禄十一年（一五六八）室町幕府、最後の将軍足利義昭を奉じ、入洛して義昭のために造った邸宅のことです。邸宅というより、堅固な城だったようです。この城をいつの頃からか「旧二条城」と呼んでいます。



① 烏丸通楳木町の石垣と濠

は、ギックリ腰になってしましました。無理もない話です。

その後、発掘を進めると石垣が出てきました。よく見ると、石仏の底部、御尻の部分が石垣の面になっていました。礎石や五輪塔もありました。ゴロゴロ出てきた石仏は、石垣からはずれた石材だったのです。おどり場のような大走りがあつて、それをはずれると

宣教師ルイス・フロイスは、この旧二条城の築城の様子をくわしく述べています。突貫工事で信長は城を造り、市中にあつた石仏を石材に転用するために、縄でひいて持つてきましたので、洛中の人々はおつかなビックリだつたとか、作業員が女性の編みがさにちょかいを出でました。これが原因で仲間の一人

急に深くなつていました。濠だったのです（写真1）。その話を聞いた専門委員の先生がやって来て、「これは旧二条城の濠と石垣ではないか」と言い出されました。まさか平安京跡から城跡が発見されると思わなかつたので、発掘仲間は、皆ビックリしました。この石垣は今は見られませんが、保存されトンネルと路面の間、トンネルの真上にあります。この石垣の下をくぐつて、我々は電車で行き交いしています。魂は抜かれた石仏なので、ただの石ということで罰はあたらないでしよう。このような旧二条城の石垣と濠が、京都御苑の西側、烏丸通の四箇所で見つかっています（写真2・3・4）。

本家玉寿軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

地域社会に貢献する

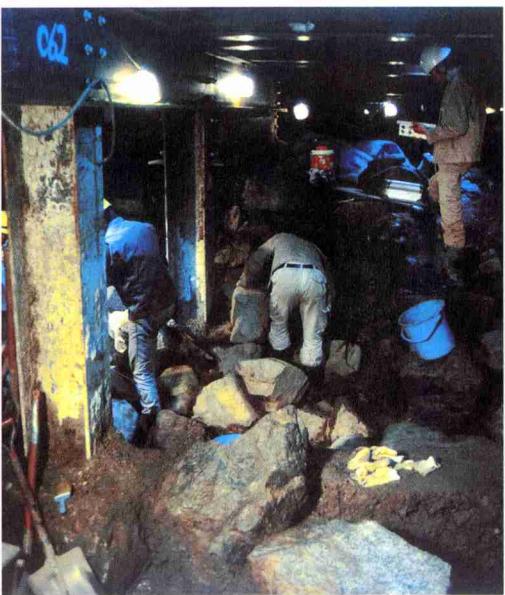
大阪陸運局自動車整備認証工場
株式会社 土田モータース
有限会社 ツチダエージュンシヤー

京・上・烏丸通寺の内上る647 〒602-0898 TEL(075)431-8121(代表) FAX(075)441-9159

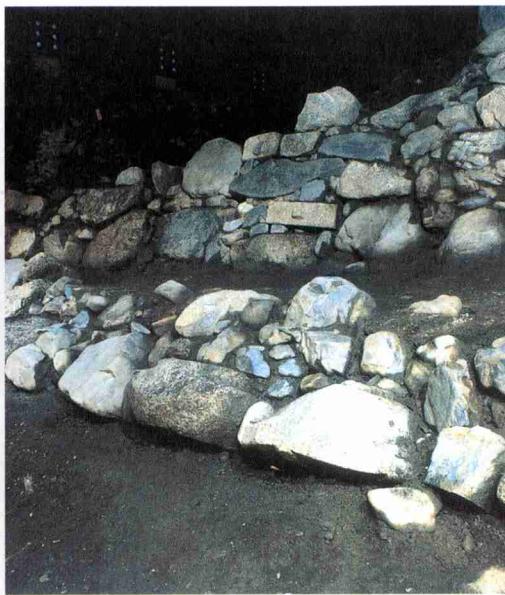
陣頭指揮していた信長は、怒り狂つて一刀両断に作業員を切り捨てたとか、今から考えれば、とんでもない強引な

ことが伝わっています。

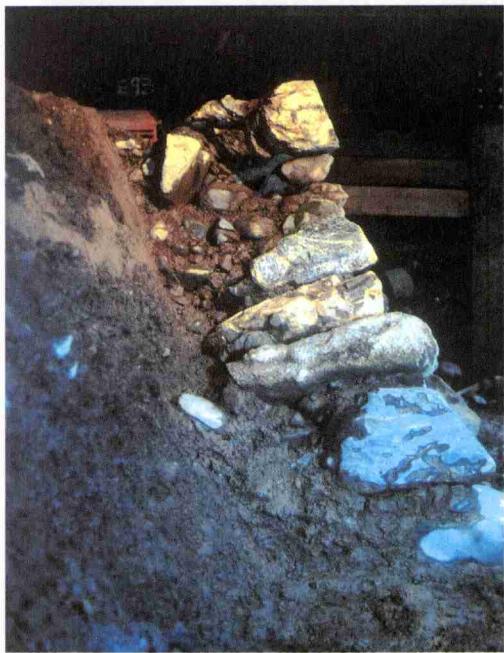
石垣を積む前に胴木という丸太を設置して、その上に石材を積んで石垣にするのですが、烏丸通出水では、この胴木の下から頭蓋骨が出土しました。銳利な刃物で切られた痕跡が、頭蓋骨の左側に二箇所残っています。二回に渡って刀が振り落とされ、頸がはねられたのです（写真5）。女性の編みがさをいじつて、切り捨てられた男性



③ 調査風景



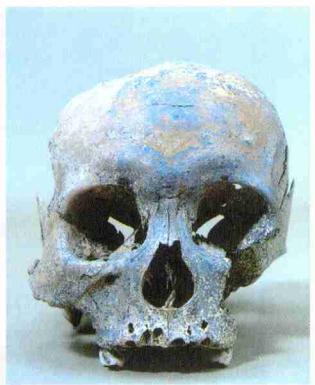
② 烏丸通下立売の石垣



④ 烏丸通下立売の石垣断面

のことを思い出しました。信長の時代に生きていたら、私はどうなるのだろうかと、少し不安になりました。こんなことをつらつら想像していました。今出川通大宮の研究所にもどりました。

（京都市埋蔵文化財研究所、永田信一）



⑤ 烏丸通出水の頭蓋骨

耳鼻咽喉科

鈴木医院

〒602-8241 京都市上京区中立売通堀川西入
TEL (075) 441-0675

■診療時間
月・火・水・金 午前9:00～12:00
午後4:30～ 7:30
土 午前9:00～11:30まで
●休診 木・日・祝

RISTORANTE
FUKUMURA
フクムラ

定休
火曜

AM11:00～PM3:00 PM5:00～PM9:00
〒604-8054
京都市中京区富小路四条上ル路地
☎(075)255-2060

ふれあいまつり



「京都まつり」の前日祭として行っている「上京区民ふれあいまつり」は、十月二十七日に、元西陣小学校を会場として開かれました。上京区内の諸団体により、それぞれに趣向を凝らした模擬店やステージではいろいろな音楽や演芸が披露されました。集まつた五千人の上京区民は、それぞれに秋のひとときを過ごしました。



永年の信用
まごころのご奉仕

(葬祭センター)

公益社

本 社 京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000

◆ 葬儀式場 ◆

中央プライトホール/京都市東山区五条通大和大路 ☎075(551)5555

北プライトホール/京都市北区紫明通堀川東入ル ☎075(414)0420

宇治プライトホール/宇治市横島町（文教大学前）☎0774(20)0142

滋賀プライトホール/大津市朝日ヶ丘1丁目12の5 ☎075(523)0042

京都まつり



第八回を迎えた「京都まつり」は、今年も御池通を会場にして十月二十八日に行われました。上京区のパレード隊は、例年通り上京の昔話を取り上げ、「くぎぬき地蔵」を主題としました。千本寺之内の石像寺に伝わる釘抜伝説をとりあげ、釘抜を持つたお地蔵様を中心、地蔵に扮した区民がかつぎ上げ、その後方に二百人余りの区民が大風流踊りを踊りながら御池通を元気よく行進しました。



上京区民ふれあい史蹟ウォーキングも十一回目を迎え、ほぼ上京区の全域を歩き通したところから、コースを組み替えて、これまでに訪ねた史蹟を再び廻ることとしました。今回は十一月二十五日に「平安京の跡をたずねて」と銘打つて法輪寺（だるま寺）や立本寺を訪ね、豊楽殿跡や造酒司倉庫跡（京都アスニ内）でも説明を受けました。二百名の参加者は晩秋の半日をウォーキングで楽しみました。

上京区民ふれあい史蹟ウォーキング





上京区民 薪能



すつかり上京区の秋の風物詩となつた上京区民薪能も第三十七回を迎えて、九月二十一日に行されました。開会直前に雨が降りはじめ、急遽会場を白峯神宮から河村能舞台に移し、上京区民による第一部からはじまり、第二部では、いちひめ雅楽会の



舞楽「還城樂」、宮城社・麻ノ会の琴演奏「千鳥の曲」、観世流と金剛流の仕舞十一番、金剛流の舞囃子「高砂」に統いて大倉流狂言「舟船」、観世流の能「天鼓」が河村和重師らによつて演じられ、重要無形文化財の至芸を満喫しました。

人権月間

バヌツア

十二月の人権月間に伴い、十二月十二日、上京区民ふれあい事業実行委員会、上京区地域啓発推進協議会主催の人権バスツアーが実施されました。

二十一世紀は「人権の世紀」と言われておりますが、日々の暮らしの中に人権を大切にし、尊重しあう習慣が根付いた「人権文化」の息づく町を目指すため各種の取組が進められました。

その一環の人権バスツアーとして、ツラッティ千本で、部落解放研究北区集会三十年間の歩みを紹介する特別展を見学した後、高麗美術館を訪れ、高麗文化から「多文化共生社会」の実現に向けた「内なる国際化」の理念を学びました。

午後からの短い時間でしたが、参加者は貴重なお話や生活資料、文献、美術工芸品等から人権について肌で感じ、理解を深めました。



秋の上京茶会

恒例の上京区文化振興会と上京区役所の共催で開かれる秋の上京茶会は、十二月二日に京都御苑内の拾翠亭を会場に裏千家の懸釜で四百人ほどの区民が一服の抹茶を味わいました。

九条池のほとりにある拾翠亭は五摺家の一つである九条家が幕末に建てた離れ座敷で、修理工事によって美しく再現された茶室から見る晩秋の風景を満喫しました。しかもこの日は敬宮愛子さまの御誕生の翌日とあって祝賀ムードが漂いました。



○「美を創る」では上京の工芸家をして紹介してきましたが、今回は趣向を変えて、伝統芸能の能楽を取り上げました。これからは「美」を広く眺めたいと思います。

○「上京の町家」の取材で富田屋さんを訪ねて、西陣の商家の奥に秘めた美意識に、上京の町家の心意気を感じさせられました。このような意気込みがいつまでも続ければ、上京区の前途も洋々たるものではないでしょうか（い）

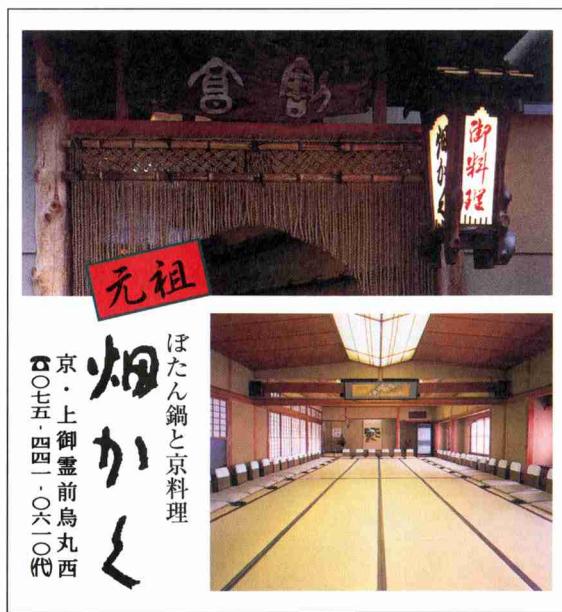
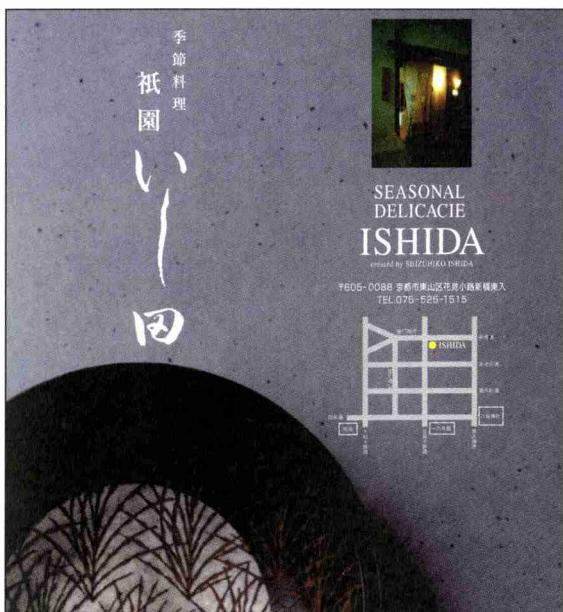
花工房

FLOWER OFFICE

いろいろなシーンに
心のこもったお花の贈りもの
花束・アレンジ・etc.

—お電話でのご予約承ります—

京都本店
京都市上京区烏丸通今出川下ル
TEL.075-414-8700㈹ FAX.075-414-7787
URL : <http://www.hanakobo.co.jp>
E-mail : hanoten@hanakobo.co.jp
長岡店・大津店

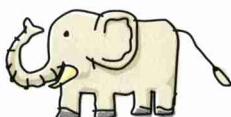


上京区民の文化的情操を高めるのが 上京区文化振興会の 使命です。

発足以来40年余、上京区民の文化人によって組織され、
文化振興に尽力してきました。



ひとりしがいない自分
いちどしがない人生
遊びを通して
豊かな人格形成を
めざしています

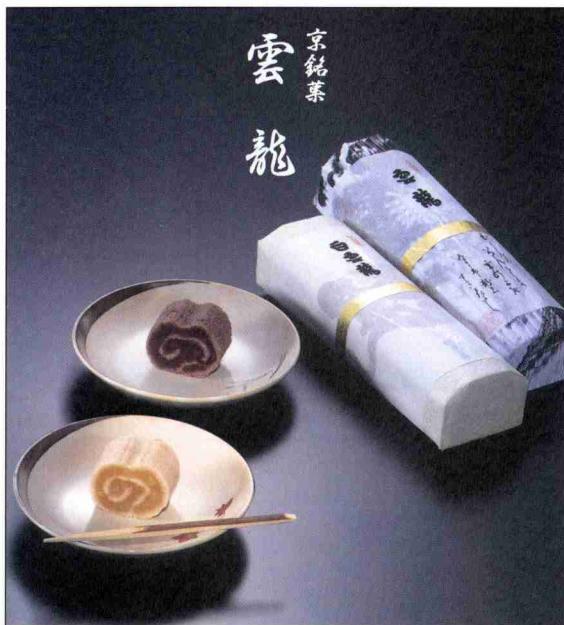


学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通り一条下る
(市バス北野天満宮下車南100米)

TEL.463-0111(代)

<http://homepage2.nifty.com/kitano-kindergarten/>



創業宝暦五年
宮内府京都御所御用



京菓子司

俵屋吉窓

本店 京都・室町上立売
電話 (432) 2211 代
烏丸店 京都・烏丸上立売
電話 (432) 3101 代